原文	修正文
この名称が一般的であるかのように誤解するおそれのある表現である。	
＜p. 320・５～15 行目＞ その直後の７月７日、北京郊外で日中両軍が軍事衝突した（**盧溝橋事件**）[1]。近衛内閣は、中国に一撃をあたえれば和平ができるとみなして、天皇による宣戦布告をせずに日本軍を派遣し、北京、天津、さらに上海を占領した（第２次上海事変）。しかし、中国の抵抗は強く、日本軍は苦戦し、1937 年に国民政府の首都南京で多数の中国軍人や民衆を殺害した（**南京大虐殺・南京事件**）[2]。この事件は国際的な非難をあび、国民政府も首都を武漢（漢口）、奥地の重慶へと移して抗戦をつづけた。	＜p. 320・５～15 行目＞ その直後の 1937 年７月７日、北京郊外で日中両国軍が軍事衝突した（**盧溝橋事件**）。現地では停戦協定が成立したが、近衛内閣は華北の獲得をめざして軍隊を増強し、宣戦布告のないままに中国との戦争を開始した（**日中戦争**）[1]。日本軍は北京と天津を、８月には上海を占領した（第２次**上海事変**）が、中国国民の抵抗ははげしく、国民政府の首都である南京占領にさいし多数の中国軍人や民衆を殺害した（**南京大虐殺・南京事件**）[2]。この事件は国際的な非難をあび、また、国民政府は首都を武漢（漢口）、奥地の重慶へと移して抗戦しつづけた。
＜p. 321・注[1]＞ [1] 当時、日本の中国（支那）駐屯軍（→p. 270）は増強され、天津より北京近くまで駐兵していたが、夜間演習の終了時に発砲があり、その犯人は不明だったが、翌日未明に中国軍を攻撃した。また、満州事変以来、交戦状態のなかった中国と、この事件以後、全面的な戦争となったが、日本は宣戦布告を行なわず、「支那事変」とよんだ。	＜p. 321・注[1]＞ [1] 義和団事件後に北京近くに駐留していた日本の中国（支那）駐屯軍（→p. 270）が行なった夜間演習の終了時に発砲事件がおこった。その犯人は不明だったが、翌日未明、駐屯軍は中国軍を攻撃した。また満州事変以来、交戦状態のなかった中国と全面的な戦争となったが、日本は宣戦布告を行なわず、「北支事変」とよび、その後「支那事変」とあらためた。現在、盧溝橋事件にはじまる中国との戦争を日中戦争または日中全面戦争とよんでいる。